

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
<b>合計</b>		<b>20</b>

事業所番号	1471902831
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ
事業所名	やすらぎの杜
訪問調査日	2015年10月30日
評価確定日	2015年11月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902831	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日		
法人名	特定非営利活動法人 やすらぎ			
事業所名	やすらぎの杜			
所在地	( 237-0077 ) 神奈川県横須賀市浜見台2-14-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成27年12月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やすらぎの杜は笑顔大切にしています。ご利用者の笑顔の為にも、ご利用者をただ介護される側に置くのではなく、共に考え、共に語り合い、共に笑い合える関係でいたいと考えています。ご利用者の笑顔が、ご家族、職員へ伝播し、ホームを取り巻く全ての人に笑い声が出るようなホームにしたいと思っています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成27年10月30日	評価機関 評価決定日	平成27年11月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームは、NPO法人やすらぎの経営です。地元有志により設立されたこのホームも開所以来10年経過しました。このホームは、京急線追浜駅から徒歩で20分程度の浜見台住宅の入り口部分に当たる坂道に面して傾斜地を利用して建てられた2階建の建物です。2階の玄関が道路に接続し、玄関までの両側には、花の咲いたプランターが置かれています。道路の反対側は、緑豊かな谷を見下ろす立地にあります。夜間一番暗かった部分にこのホームが出来た為、夜道が、明るくなったと地域住民に喜ばれています。

②このホームは「笑顔」を大切にしています。理念と共に「丁寧な言葉遣いのケア」、「利用者の整容」などからなる4項目の介護の目標を事務所や職員用のトイレに掲示し、職員全員が共通認識が持てるように取り組んでいます。利用者の笑顔を得るために、行事担当職員を置き、毎月1回、行事を開催しています。特に事務長が運営している別NPO法人の地域コミュニティバス「浜ちゃんばす」が、土・日は、空いている為、そのバスを利用した外出行事(5月鯉のぼり6月あじさい祭り10月ミカン狩り)では、利用者も職員も全員参加を基本にしています。7月の夏祭りでは、かき氷、綿菓子、焼きそばなどの模擬店も出し、利用者ご家族と一緒に楽しんでいます。12月のクリスマス会には、近隣住民をお招きしてパーティーを開催しています。一方職員の福利厚生として、昨年より「ハマちゃんバス」を利用しての職員の一泊旅行を実現しています。同じルートを2回に分け、多くの職員が参加出来るようにしています。この職員旅行中に、職員間での仕事の話し合いも充分に行われ、関係が密になり、日頃のコミュニケーションが一段と良化しています。

③防災対策には、力を入れています。運営推進会議のメンバーである地元町内会長の協力もあり、災害時に地元町内会との協力体制が構築されています。今年の2月には、新たに防災倉庫を設置し、飲料水や食料品の備蓄品を行い、自家発電装置も購入しました。この11月の防災訓練では、備蓄品のアルファ米の炊き方を訓練する為、炊き出しを行う予定です。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	1階 もみじ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。介護理念を作成し、職員への浸透をはかる為にも、施設内の目に留まりやすい場所に掲示し、徹底をしている。	地元出身の有志が立ち上げたホームであり「地域の高齢者が心豊かに安心して過ごせる場」の提供を第一にの目標にしています。介護理念・目標が、職員に浸透できるよう施設内の目の留まりやすい場所である事務所と職員トイレの中に掲示して、職員間で共有できるよう取り組んでいます。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の町内会に加入し、常に交流をはかっている。毎年、町内のコーラスボランティアが来て楽しいひと時を過ごしている。また、学童保育や中学校の生徒も訪れ、子ども達との楽しい時間を過ごす機会も大切にしている。クリスマス会には地域の方をご招待し、交流を深める事ができた。	地元の町内会に加入し、常に交流に取り組んでいます。毎月町内のコーラスボランティアに来て頂き一緒に唄うなど楽しいひと時を過ごしています。毎年、地域の中学生在が春・秋の2回職場体験で来て利用者者と交流しています。クリスマス会には、地域住民の方々を招待して、パーティを開き、交流を深めています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある福祉施設という立場で、老人会で最近の福祉を取り巻く状況等についてお話させて頂いた事もある。施設内の見学ができる機会を作り、町内会長をはじめ、地域の方や民生委員等、実際に介護に携わっている方や相談を受ける方がやすらぎの杜の存在を知って頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、町内の方、包括支援センター、ご家族の代表等に参加頂き、ホームの状況をお知らせしながら意見を交換し、施設や介護の向上を目指している。年に数回、市の担当職員にも参加して頂き、アドバイスを受けている。災害時等の対応についても、話し合いをしている。	2ヶ月に1度、町内会長を始め、地域の方、包括支援センター、ご家族代表に参加頂き、ホームの状況を報告し、意見交換を行っています。町内会長が協力的で、消防関係に顔が広く、防災対策の面でも助言を頂いています。市の担当職員にも年数回参加頂きアドバイスや相談に乗っていただいています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員とは日頃から極力連携を取るようにし、協力関係を築くよう取り組んでいる。転倒事故等、特変があった時にも。昨年は伝染性疾患の発病もあり、市の担当課との連携、又は指導どおりに対応する事により、最小限に留める事ができた。	市の担当職員とは、日頃から極力連携を取り、協力関係の構築に努めています。昨年伝染性疾患発生時には、市の担当課との連絡を密にし、市からの指導通り対応することより最小限で収束出来ました。グループホーム連絡会ホームページでの空き室情報の掲載や、研修への参加などで連携しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束に当たり、又、その弊害について掲示し、職員に徹底するようにしている。日中は玄関も施錠する事なく、見守りによってケアするよう努力している。やむを得ずミトンの使用が必要な利用者については常に家族と連携をとり、職員のミーティングでより良い方法を話合うようにしている。	どのような行為が身体拘束に当たり、その弊害について掲示するなど職員への教育を徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。やむを得ず、ご家族の了解を得て、つなぎを着用する場合がありますが、精神科医への相談、職員間でも話し合い、早期解決できる方法を検討しています。日中の時間帯は玄関の施錠は行わず職員の見守りで対応しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩であるご利用者に対し、尊敬の念を持つことを心掛け、虐待という気持ち、行為が微塵も起きてはならない事を職員に徹底している。また、研修などで得た知識も、職員一人一人に浸透するように働きかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支援を行う事がホームの役割である事を職員に徹底し、研修参加も積極的に促している。現在は成年後見人を必要とする人はいないが、今後必要性がある場合には、介護についてよく話し合いながら進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条ごとに質問、確認をとるようにしている。法制の改正により、変更となった項目もありご利用者やご家族の不安や疑問が残る事のないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や、年一回のユニットごとの家族会を通し、意見、要望を聞くようにしている。今年は”夏祭り”として1・2F合同の家族会を行い、ケアプランの話し合いや、屋台で模擬店を楽しんで頂き、和やかな雰囲気となった。外部評価アンケートは、より良い施設運営の貴重な意見として捉えている。	面会時や年1階のユニットごとの家族会を通して、意見・要望を伺っています。今年は、夏祭りの非に合わせて1・2階合同の家族会を行い、屋台の模擬店を楽しんで頂き、和やかな雰囲気で行いました。日常の面会の際には、ご家族にホームの食事を提供することもあり、利用者と同じものを食べて頂くことで、普段の食事内容を見てもらう機会にもなっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い介護や運営を目指して、ミーティング等で意見、提案を聞く機会を設けている。個人面談でも、随時意見を聞くよう心掛けている。又、必要に応じて、理事長、事務長、管理者、フロアリーダー、ケアマネ等でリーダーミーティングを開催し、意見交換の機会を設けるようにした。	より良い介護や運営を目指して、会議などで意見・提案を聞く機会を設けています。昨年より始めた福利厚生を兼ねた、年1回の職員一泊旅行では、職員間の交流を深めると共に忌憚のない意見交換も行なえました。必要に応じて、理事長・事務長・管理者・ユニットリーダー・ケアマネによるリーダーミーティングでの話し合いも行われています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日数や夜勤の状況を加味して、一時金の支給を行い、少しでもモチベーションが高まるようにしている。大半がパート職員だが、年末の寸志、期末手当を支給しやりがいを持てるよう対応している。職場の人間関係のより良い状況を目指し、改善を心掛けている。社員旅行を実施し、交流を深める事ができた		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加してもらっている。又、研修で得た知識、経験を職場で反映してもらえるよう働きかけている。経験の浅い職員に対しては、先輩職員積極的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、他事業者との交流ができています。又、職員も他の事業所との交流研修等に参加する事で、他のグループホームの様子を知る事ができています。他のホームの良い所を吸収して、ご利用者に反映していけるよう指導している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人との面談を行い、不安に感じている事などをヒアリングしている。できる限りご本人が納得して利用できるよう支援している。入居してからも、初めの数日間は極力声をかけるようにし、早くホームの生活に馴染んで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談でなく、複数回面談しながら家族の悩みや要望を出来るだけ汲み取っていきけるよう努め、更に電話等により話し合いを行うようにしている。又、行事等の写真をご家族に送付し、離れて暮らしていても最近の生活や、笑顔の表情をご覧になられて、安心感を持たれるご家族も多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとご本人とのマッチングを重要視している。グループホームに入る事が、本当にご本人の為になるのか、在宅や特養等のサービスと比較した上で、ご家族とも話し合い、納得して頂いた上で入居を検討して頂けるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には、積極的に声をかけ、炊事、洗濯物たたみ、カレンダー作り等を職員と共に行って頂くようにしている。職員とご利用者が共に作るホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ、家族の絆を強く持って頂きたく、外食や外出を無理のない程度に行って頂く事を勧めている。通院の際にも、通院だけでなく食事やお茶等の時間を持つて頂くよう働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元にお住まいだった方も多く、町内や近隣に住んでいた方も訪問して下さっている。又、お墓参りや実家に帰られるご利用者もいて、出来る限り今まで縁のある人や場所との関係を保つて頂けるよう働きかけている。	地元出身の利用者が多く、特に独居だった利用者はお世話になった町内や近隣住民に来て頂いています。ご家族と一緒に墓参りやお孫さんの結婚式へ参加される利用者もいます。ホームの電話は自由に使つて頂いており、年賀状のお手伝いをする等して馴染みの関係維持の支援をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間など、ご利用者同士が関わりを持てるよう席順を配慮している。自室に閉じこもらず、出来るだけ共有フロアで過ごして頂くよう働きかけている。大人数掛けのソファもあり、コミュニケーションをはかれるようにしている。カラオケの導入で、より楽しみ方が増している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療が必要になった為、退所された方も多く、病院へのお見舞いを心掛けている。退所後もご家族様が新しい入居希望者を紹介して下さいたり、信頼関係を保っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人やご家族からこれまでの暮らしぶり等を聞くようにしたり、時間を見つけて共有フロア等で寄り添って、一人一人とお話する機会を作り、思いや希望、意向の把握に努めている。踊りの好きな方は音楽に合わせて踊ったりされ、楽しまれている。	入居時に利用者やご家族からこれまでの生活歴を伺い得られた情報を介護計画に落とし込みこれまでの習慣を継続できるよう支援しています。入居後は、時間を見つけて一人ひとりに寄り添い話を聞いたり、利用者同士の会話の中に職員が入り、利用者の思いや希望の把握に努めています。把握できた利用者の希望は、できる限り対応しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や趣味などを、出来る限り本人やご家族に聞き、職員が共有できるようミーティング等で話をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為、ケース記録を時系列順に記録している。お手伝いして下さった事や、排泄回数、睡眠時間、心身状態等の暮らしぶりを出るだけ詳細に記録し、状態把握に努めている。日勤と夜勤の交代時にも、申し送りをしっかりするように心掛けている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所された折には、出来る限り普段の様子を伝え、ご利用者を共に支えるという立場で話し合いを持つように努めている。医療面においては、施設とご家族、医師との連携をしっかりとるよう努めている。	介護計画は、6ヶ月毎に見直しすることを基本にしています。ご家族が来所された折には、普段の様子を伝え、利用者を共に支えるとの立場で話し合っています。見直しの際には、居室担当の気付きやご家族・医師からの意見も参考にして、介護計画の見直しを行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に、時系列順の個別記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬等を細かく記録している。月次会議の際には、それを基にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ターミナルケアについては行っていないが、ご利用期間が長くなると高齢化も進み、緩やかに終末期に向かっているご利用者もおおり、当ホームで出来る事などを説明し、対応についてはご家族、医師と協議、同意した上で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターと連携をとり、地域のボランティアを紹介して頂いたりしている。コーラスのボランティアが、毎月ホームを訪問して下さり、ご利用者の楽しみの一つになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。現在内科2医院、歯科2医院、精神科医院と連携している。緊急時には、かかりつけ医に連携をとる事により、総合病院への対応も速やかに行う事ができている。	入居時に従来のかかりつけ医での受診を希望する方には、継続して受診できるように支援しています。協力医として、内科2医院、歯科2医院、精神科医院と連携して往診に来て頂いています。内科医は毎週往診に来て頂いています。緊急時には、主治医と連絡を取り、総合病院で速やかに受診できる体制が整っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は配置していないが、必要に応じて訪問看護師の依頼も考えていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、ご家族に同意得た上で同席させて頂き、状況を把握するよう努めている。又、病院とは常に連携をとり、情報交換や相談に応じている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、少しでも命を長らえて頂く事が介護士の努めであると考えている。重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や、緩やかな終末期のご利用者に対してはホームで出来る事、出来ない事をご家族に説明し、納得された上で支援に取り組んでいる。	重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や緩やかな終末期の利用者に対しては、ホームで出来ることと出来ないことをご家族に説明して、納得をいただいた上での支援に取り組んでいます。看取り介護については、医療連携も含めて今後の課題として、検討する方針です。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習に参加するようにして、応急手当や初期対応にあたるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い災害時に備えている。平成22年1月に、市内のグループホームでは初めてスプリンクラーを設置、自動通報設備も設置し防災訓練時消防署の協力のもと実際に使用。地元町内会とも災害時の協力体制を築いている。新たに防災倉庫を設置し、飲料水、食料品の備蓄も行っている。	年2回の防災避難訓練を消防署協力のもと、行っています。この11月には、備蓄品のアルファ米の炊き出しを実際に行う予定です。地元町内会とは、町内会長の協力もあり、災害時の協力体制が構築されています。今年2月に新たに防災倉庫を設置し、飲料水・食料品の備蓄を行うと共に自家発電機も購入しました。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、人生の達人である事を常に念頭に置く事を指導している。介護する側も、学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れず、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	利用者は、人生の先輩であることを常に念頭に置いて対応することを職員に徹底しています。介護する側も学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れず、利用者の人格を尊重し、誇りやプライドを損ねない対応を心掛けています。時折、元気が良過ぎる言動が見られた場合には、リーダーがその場で注意しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共有フロア等では、ご利用者に寄り添い、話しかける時間を出来るだけ作るようにし、意思を尊重するようにしている。意思表示が難しい方には聞き取る努力をしている。又、希望される方には自由にご家族へ電話をかけたたりする事ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間はある程度の目安は付けているが、朝ゆっくり起きたい方、夜ゆっくりテレビを見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるよう支援している。昼間は、殆どの方が共有フロアで過ごされているが、自室でくつろぎたい方もおり、自由に過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性にはビューティーヘルパーさんを招き、整髪して頂いたいる。希望者には、行きつけの美容室へ外出できるようにするなど、その人の好みに合わせていくようにしている。介護者の中に美容師がいて、たまに整髪をしてあげる事もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しめるよう、声をかけながら同じテーブルで食事をしている。調理や配膳、片付けが出来る方にはお手伝いして頂くよう働きかけている。又、外出行事の折にはレストラン等で外食し、楽しんで頂いている。正月、ひな祭り、土用の丑の日など、時節に合わせた食事を行ったり、誕生日食を取り入れている。	共に食事が楽しめるよう、声を掛けながら職員は利用者と同じテーブルで食事をしています。調理や配膳、片付けも出来る利用者には、お手伝いをして頂くよう働きかけています。外出行事の時には、レストランでの外食が慣例になっており、利用者に食べたい物を選んでもらい食事を楽しんで頂いてます。お正月や雛祭り、土用の丑の日等、行事食を提供し、誕生日にはケーキを皆で食べています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に、食事、水分量を記録し、各利用者の摂取量を把握するよう努めている。特に、水分摂取に注意を要する方に対しては、摂取量、排泄量を細かくチェックしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などには、本人によるケアが終わった後、職員が仕上げのケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人のパターンを見極め、トイレ誘導もその人に合わせた声かけや援助をしながら、出来る限り自立を促すようにしている。	排泄間隔を画一的に捉えず、排泄記録表に基づいて一人ひとりの排泄パターンを見極め、適切なトイレ誘導を行っています。トイレ誘導もその人に合わせた声掛けや支援をしながら、出来る限り排泄の自立を促しています。夜間オムツの方も日中は、リハビリパンツを着用し、トイレでの排泄を支援しています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事だ予防できるよう、バナナやイモ類等の食物繊維を多く含む食材を、メニューに取り入れている。長期の便秘に対しては医師の指導により、便秘対策を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴が基本であるが、希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう見守りながら、ゆっくりと入浴して頂くよう支援している。季節に合わせて、ゆず湯、菖蒲湯などとして、入浴を楽しんで頂けるようにしている。	週3回の入浴が基本ですが、希望のある方は、毎日入浴出来る支援をしています。大まかな入浴時間は決まっていますが、一人ひとりが入浴を楽しめるよう見守りながらゆっくりと湯船に浸かって頂けるよう支援しています。季節に合わせて、菖蒲湯・ゆず湯等を行い、入浴を楽しんで頂けるよう配慮しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床、就寝の支援をしている。日常的に起床時間が遅い方もいるが、ご本人に合わせた食事ができるよう、無理のない時間に起床して頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか把握する為、一覧ファイルを作り、支援している。状況の悪化や、改善が見られない場合には、医師に相談して対応してもらっている。薬の使用については、ご家族、医師と相談をしながら決めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理、洗濯たたみなど、それぞれができる事をお手伝いして頂いている。ただ利用者という立場ではなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じて頂けるよう支援している。毎月のカレンダー作りや、フロアの飾り付けの作品を作って下さる方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所を散歩するようにしている。散歩が無理な方には、玄関前で外気浴をして頂いている。年数回の外出行事には、地域のNPO法人が運行する「ハマちゃんバス」に依頼して、沢山のご利用者が外出出来るようにしている。（お花見、こいのぼり、しょうぶ園、紅葉狩り、みかん狩り等）	天気の良い日は、近所を散歩したり、散歩の無理な方には玄関前で外気浴をしています。毎月のように外出行事があり（お花見・鯉のぼり、しょうぶ園・紅葉狩り・みかん狩りなど）同系列のNPO法人が運営する「ハマちゃんバス」が休みの土・日にバスを利用して出かけます。ほぼ全員の利用者が出かけます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣には商店等がなく、徒歩での買い物は不可能な為、普段は一人一人のお小遣いをお預かりしている。必要なものがある時には、職員が買い物をしてお渡ししている。外出時には、希望があればお買い物をして頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜、早朝以外は希望されれば自由に電話をかけてもらっている。手紙も自由にやり取りして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアに、レクでの制作物などを掲示している。行事の際の写真を貼りだしたり、カレンダーも職員とご利用者で作り、掲示している。季節を感じて頂けるような花を生けたり、正月の飾り、雛飾り、七夕、クリスマス飾りなどを行っている。テレビを見たり、カラオケを楽しんで頂いたりできるように工夫し、ほとんどの方が日中は共有フロアで過ごされている。	リビングや廊下の壁には、行事の際の写真が貼り出され、利用者やご家族との会話の材料になっています。レクでの制作物も掲示されています。お花係もいて、毎日キレイな花が飾られています。日中は、利用者のほとんどの方がリビングで過ごし、午前中は体操やレク、午後はテレビを観たり、利用者同士で会話を楽しむなど、各々が和やかに寛いで過ごしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ居室に閉じこもりきりにならないよう、共有フロアには3～4人掛けのソファを設置しており、気の合う利用者同士で話をしたり、テレビを見たりして過ごせる空間になっている。カラオケや将棋を楽しむ方もいらっしゃる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具などを持ち込んで頂いている。殺風景な部屋にならないよう、家族やペットの写真、レクで作成した物を貼ったりしている。敬老会、紅葉狩り、運動会など、行事の折に写真を撮り居室に貼っている。	入居時に、使い慣れた家具や備品などを持ち込んで頂いています。殺風景な部屋にならないよう、家族やペットの写真、行事写真やレクで作った作品を飾り、明るく賑やかな部屋になっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立を促していけるよう、居室やトイレに案内表示をつけている。居室の案内は、手作りのボードにお名前を書き、よりご自分のお部屋と感じて頂けるよう工夫している。又、出来る限りトイレでの排泄を継続していけるようサポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

やすらぎの杜（もみじ）

作成日

平成27年10月30日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	パート職員が多く、常勤職員の増加をはかると共に、定着化をはかる。	職場環境、条件の整備に努め、常勤職員の雇用、定着をめざす。	常勤できる職員を広く募集し、管理者や職員との話し合い、対話を重ねて人間関係を築きながら定着化をはかる。	1年
2	2	より多方面からのボランティアの受け入れ。	りょうしゃの趣味にあったボランティアを招く。	地域の方や、職員の人間関係、またボランティアセンターへ働きかける。	1年
3	19	行事への家族等の参加	家族と利用者との絆を深めると共に、最近の利用者の様子を見て頂く。	家族の方が参加して頂ける行事等の機会を増やす。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	2階 すみれ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。介護理念を作成し、職員への浸透をはかる為にも、施設内の目に留まりやすい場所に掲示し、徹底をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入し、常に交流をはかっている。毎年、町内のコーラスボランティアが来て楽しいひと時を過ごしている。また、学童保育や中学校の生徒も訪れ、子ども達との楽しい時間を過ごす機会も大切にしている。クリスマス会には地域の方をご招待し、交流を深める事ができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中にある福祉施設という立場で、老人会で最近の福祉を取り巻く状況等についてお話させて頂いた事もある。施設内の見学ができる機会を作り、町内会長をはじめ、地域の方や民生委員等、実際に介護に携わっている方や相談を受ける方がやすらぎの杜の存在を知って頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、町内の方、包括支援センター、ご家族の代表等に参加頂き、ホームの状況をお知らせしながら意見を交換し、施設や介護の向上を目指している。年に数回、市の担当職員にも参加して頂き、アドバイスを受けている。災害時等の対応についても、話し合いをしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員とは日頃から極力連携を取るようにし、協力関係を築くように取り組んでいる。転倒事故等、特変があった時にも。去年は伝染性疾患の発病もあり、市の担当課との連携、又は指導どおりに対応する事により、最小限に留める事ができた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束に当たり、又、その弊害について掲示し、職員に徹底するようにしている。日中は玄関も施錠する事なく、見守りによってケアするよう努力している。やむを得ずミトンの使用が必要な利用者については常に家族と連携をとり、職員のミーティングでより良い方法を話合うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩であるご利用者に対し、尊敬の念を持つことを心掛け、虐待という気持ち、行為が微塵も起きてはならない事を職員に徹底している。また、研修などで得た知識も、職員一人一人に浸透するよう働きかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の支援を行う事がホームの役割である事を職員に徹底し、研修参加も積極的に促している。現在は成年後見人を必要とする人はいないが、今後必要性がある場合には、介護についてよく話し合いながら進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条ごとに質問、確認をとるようにしている。法制の改正により、変更となった項目もありご利用者やご家族の不安や疑問が残る事のないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や、年一回のユニットごとの家族会を通し、意見、要望を聞くようにしている。今年は”夏祭り”として1・2F合同の家族会を行い、ケアプランの話合いや、屋台で模擬店を楽しんで頂き、和やかな雰囲気となった。外部評価アンケートは、より良い施設運営の貴重な意見として捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良い介護や運営を目指して、ミーティング等で意見、提案を聞く機会を設けている。個人面談でも、随時意見を聞くよう心掛けている。又、必要に応じて、理事長、事務長、管理者、フロアリーダー、ケアマネ等でリーダーミーティングを開催し、意見交換の機会を設けるようにした。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日数や夜勤の状況を加味して、一時金の支給を行い、少しでもモチベーションが高まるようにしている。大半がパート職員だが、年末の寸志、期末手当を支給しやりがいを持てるよう対応している。職場の人間関係のより良い状況を目指し、改善を心掛けている。社員旅行を実施し、交流を深める事ができた		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、パート職員にも外部研修に参加してもらっている。又、研修で得た知識、経験を職場で反映してもらえるよう働きかけている。経験の浅い職員に対しては、先輩職員積極的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会を通じて、他事業者との交流ができています。又、職員も他の事業所との交流研修等に参加する事で、他のグループホームの様子を知る事ができています。他のホームの良い所を吸収して、ご利用者に反映していけるよう指導している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人との面談を行い、不安に感じている事などをヒアリングしている。できる限りご本人が納得して利用できるよう支援している。入居してからも、初めの数日間は極力声をかけるようにし、早くホームの生活に馴染んで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談でなく、複数回面談しながら家族の悩みや要望を出来るだけ汲み取っていけるよう努め、更に電話等により話し合いを行うようにしている。又、行事等の写真をご家族に送付し、離れて暮らしていても最近の生活や、笑顔の表情をご覧になられて、安心感を持たれるご家族も多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとご本人とのマッチングを重要視している。グループホームに入る事が、本当にご本人の為になるのか、在宅や特養等のサービスと比較した上で、ご家族とも話し合い、納得して頂いた上で入居を検討して頂けるように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には、積極的に声をかけ、炊事、洗濯物たたみ、カレンダー作り等を職員と共に行って頂くようにしている。職員とご利用者が共に作るホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ、家族の絆を強く持って頂きたく、外食や外出を無理のない程度に行って頂く事を勧めている。通院の際にも、通院だけでなく食事やお茶等の時間を頂くよう働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元にお住まいだった方も多く、町内や近隣に住んでいた方も訪問して下さっている。又、お墓参りや実家に帰られるご利用者もいて、出来る限り今まで縁のある人や場所との関係を保って頂けるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間など、ご利用者同士が関わりを持てるよう席順を配慮している。自室に閉じこもらず、出来るだけ共有フロアで過ごして過ごして頂くよう働きかけている。大人数掛けのソファもあり、コミュニケーションをはかれるようにしている。カラオケの導入で、より楽しみ方が増している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療が必要になった為、退所された方も多く、病院へのお見舞いを心掛けている。退所後もご家族様が新しい入居希望者を紹介して下さいたり、信頼関係を保っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人やご家族から今までの暮らしぶり等を聞くようにしたり、時間を見つけて共有フロア等で寄り添って、一人一人とお話する機会を作り、思いや希望、意向の把握に努めている。踊りの好きな方は音楽に合わせて踊ったりされ、楽しまれている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や趣味などを、出来る限り本人やご家族に聞き、職員が共有できるようミーティング等で話をするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為、ケース記録を時系列順に記録している。お手伝いして下さった事や、排泄回数、睡眠時間、心身状態等の暮らしぶりを出来るだけ詳細に記録し、状態把握に努めている。日勤と夜勤の交代時にも、申し送りをしっかりするように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所された折には、出来る限り普段の様子を伝え、ご利用者を共に支えるという立場で話し合いを持つように努めている。医療面においては、施設とご家族、医師との連携をしっかりとるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に、時系列順の個別記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬等を細かく記録している。月次会議の際には、それを基にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、ターミナルケアについては行っていないが、ご利用期間が長くなると高齢化も進み、緩やかに終末期に向かっているご利用者もおり、当ホームで出来る事などを説明し、対応についてはご家族、医師と協議、同意した上で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターと連携をとり、地域のボランティアを紹介して頂いたりしている。コーラスのボランティアが、毎月ホームを訪問して下さり、ご利用者の楽しみの一つになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。現在内科2医院、歯科2医院、精神科医院と連携している。緊急時には、かかりつけ医に連携をとる事により、総合病院への対応も速やかに行う事ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員は配置していないが、必要に応じて訪問看護師の依頼も考えていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、ご家族に同意得た上で同席させて頂き、状況を把握するように努めている。又、病院とは常に連携をとり、情報交換や相談に応じている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、少しでも命を長らえて頂く事が介護士の努めであると考えている。重度化しても医療によって回復の可能性がある場合や、緩やかな終末期のご利用者に対してはホームで出来る事、出来ない事をご家族に説明し、納得された上で支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急講習に参加するようにして、応急手当や初期対応にあたるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い災害時に備えている。平成22年1月に、市内のグループホームでは初めてスプリンクラーを設置、自動通報設備も設置し防災訓練時消防署の協力のもと実際に使用。地元町内会とも災害時の協力体制を築いている。新たに防災防災倉庫を設置し、飲料水、食料品の備蓄も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩であり、人生の達人である事を常に念頭に置く事を指導している。介護する側も、学ばせて頂いているとの感謝の気持ちを忘れずに、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共有フロア等では、ご利用者に寄り添い、話しかける時間を出来るだけ作るようにし、意思を尊重するようにしている。意思表示が難しい方には聞き取る努力をしている。又、希望される方には自由にご家族へ電話をかけたたりする事ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間はある程度の目安は付けているが、朝ゆっくり起きたい方、夜ゆっくりテレビを見たい方もおり、一人一人のペースを尊重しながら生活できるよう支援している。昼間は、殆どの方が共有フロアで過ごされているが、自室でくつろぎたい方もおり、自由に過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性には出張の床屋さん、女性にはビューティーヘルパーさんを招き、整髪して頂きたい。希望者には、行きつけの美容室へ外出できるようにするなど、その人の好みに合わせていくようにしている。介護者の中に美容師がいて、たまに整髪をしてあげる事もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事を楽しめるよう、声をかけながら同じテーブルで食事をしている。調理や配膳、片付けが出来る方にはお手伝いして頂くよう働きかけている。又、外出行事の折にはレストラン等で外食し、楽しんで頂いている。正月、ひな祭り、土用の丑の日など、時節に合わせた食事を行ったり、誕生日食を取り入れている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に、食事、水分量を記録し、各利用者の摂取量を把握するよう努めている。特に、水分摂取に注意を要する方に対しては、摂取量、排泄量を細かくチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などには、本人によるケアが終わった後、職員が仕上げのケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔を画一的に捉えず、一人一人のパターンを見極め、トイレ誘導もその人に合わせた声かけや援助をしながら、出来る限り自立を促すようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事だ予防できるよう、バナナやイモ類等の食物繊維を多く含む食材を、メニューに取り入れている。長期の便秘に対しては医師の指導により、便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴が基本であるが、希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう見守りながら、ゆっくりと入浴して頂くよう支援している。季節に合わせ、ゆず湯、菖蒲湯などとして、入浴を楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床、就寝の支援をしている。日常的に起床時間が遅い方もいるが、ご本人に合わせた食事ができるよう、無理のない時間に起床して頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているか把握する為、一覧ファイルを作り、支援している。状況の悪化や、改善が見られない場合には、医師に相談して対応してもらっている。薬の使用については、ご家族、医師と相談をしながら決めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理、洗濯たたみなど、それぞれができる事をお手伝いして頂いている。ただ利用者という立場ではなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じて頂けるよう支援している。毎月のカレンダー作りや、フロアの飾り付けの作品を作って下さる方もいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所を散歩するようにしている。散歩が無理な方には、玄関前で外気浴をして頂いている。年数回の外出行事には、地域のNPO法人が運行する「ハマちゃんバス」に依頼して、沢山のご利用者が外出出来るようにしている。（お花見、こいのぼり、しょうぶ園、紅葉狩り、みかん狩り等）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣には商店等がなく、徒歩での買い物は不可能な為、普段は一人一人のお小遣いをお預かりしている。必要なものがある時には、職員が買い物をしてお渡ししている。外出時には、希望があればお買い物をして頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜、早朝以外は希望されれば自由に電話をかけてもらっている。手紙も自由にやり取りして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアに、レクでの制作物や書道などを掲示している。行事の際の写真を貼りだしたり、カレンダーも職員とご利用者で作成し、掲示している。季節を感じて頂けるような花を生けたり、正月の飾り、雛飾り、七夕、クリスマス飾りなどを行っている。テレビを見たり、カラオケを楽しんで頂いたりできるよう工夫し、ほとんどの方が日中は共有フロアで過ごされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ居室に閉じこもりきりにならないよう、共有フロアには3～4人掛けのソファを設置しており、気の合う利用者同士で話をしたり、テレビを見たりして過ごせる空間になっている。カラオケや将棋を楽しむ方もいらっしゃる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具などを持ち込んで頂いている。殺風景な部屋にならないように、家族やペットの写真、レクで作成した物を貼ったりしている。敬老会、紅葉狩り、運動会など、行事の折に写真を撮り居室に貼っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも自立を促していけるよう、居室やトイレに案内表示をつけている。居室の案内は、手作りのボードにお名前を書き、よりご自分のお部屋と感じて頂けるよう工夫している。又、出来る限りトイレでの排泄を継続していけるようサポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

やすらぎの杜（すみれ）

作成日

平成27年10月30日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	パート職員が多く、常勤職員の増加をはかると共に、定着化をはかる。	職場環境、条件の整備に努め、常勤職員の雇用、定着をめざす。	常勤できる職員を広く募集し、管理者や職員との話合い、対話を重ねて人間関係を築きながら定着化をはかる。	1年
2	2	より多方面からのボランティアの受け入れ。	りょうしゃの趣味にあったボランティアを招く。	地域の方や、職員の人間関係、またボランティアセンターへ働きかける。	1年
3	19	行事への家族等の参加	家族と利用者との絆を深めると共に、最近の利用者の様子を見て頂く。	家族の方が参加して頂ける行事等の機会を増やす。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。